

4. きらめく動物たちの命と海 【久保田信の白浜だより(その11)】

番所崎に 524 種の貝殻

京都大学瀬戸臨海実験所近くの北浜を中心とした番所崎の磯浜で、過去7年間に打ち上げられた大型の貝殻は 524 種類にもなる。その数は予想以上に多く、まだカウントに入っていない微小貝も含めると、貝殻だけでいったい何種になるのだろうか？岩礁と砂浜が交互し、転石が多く、季節によっては海藻が繁茂するなど、様々な住み場所が北浜から塔島、そして円月島にまわっていく番所崎の方々にあるので、多種多様な貝類が住める海岸となっているのだ。番所崎を1周しただけで、最低数十種、多い時は数百種が楽に集められる。

番所崎一帯には、ごく普通に生息しているのに、打ち上げ収集で貝殻が1個も見つからない種もある。潮上帯に生息するイボタマキビがその代表種である。イボタマキビの貝殻がすぐにこなごなになってしまうとは思われないので、どうして打ち上げ物の中で見つからないのか、不思議である。一方、明らかに食用とされた後で捨てられたホタテガイや、自生しないが、釣り餌や食用になったサザエなどもある。大きなマガキの貝殻も、食用にされ捨てられたものだ。

様々な生息場所からの貝殻の打ち上げ

打ち上げには田辺湾よりずっと南方の沖合や深みに生息するものが、黒潮で運ばれてきて、漂着するものもある。10年間に1回だが、「生きている化石」オウムガイが漂着することもある。オウムガイより小形だが、同じような生活を送るタコブネの貝殻も少なく、数個体の発見だ。

陸生や淡水の貝類も打ち上がる。それは、瀬戸臨海実験所構内などに生息するカタツムリ類が主なものだ。この他、稲への害で知られる外来種のジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の漂着がある。綺麗な筋の入った殻は薄いので、浮きやすい。ジャンボタニシが流れ着いた記録は、南紀生物誌 41 巻に報告したが、1993 年に初めて見つけた時は、見慣れない不思議な海産の巻貝だととまどった。日本ではほとんど知られていないオオクビキレガイという、地中海沿岸原産のカタツムリの一種の打ち上げ例もある。南紀生物誌 44 巻に、カタツムリ類の専門家で白浜町在住の湊 宏先生や、貝類に詳しい土生紳吾さんと一緒に報告した。その後、生きたオオクビキレガイが付近に生息しているのが確認された。

世界の貝類に詳しい和歌山市在住の小山安生先生が、北浜周辺で打ち上がった貝殻について、最終的にすべて同定して下さる。貝類のような大きな分類群では、専門分野が細分化され、専門家ごとに奥深い研究が進んでいるのだが、なんでもわかる研究者がいなくなりつつある中で、小山先生は貴重な生き字引なのである。524 種類を記録したリストは、小山先生と共著で南紀生物誌 44 巻 1, 2 号にまたがってまとめられた。内訳は、巻貝類が圧倒的に多く 381 種類、次が二枚貝類で 133 種類である。これらの貝の中には、ホシダカラガイのように、日本北限を記録した種もいくつもあった。たった 1 個体だけのミソラフトコロは日本新記録種とのことで、小山先生は南紀生物誌 46 巻で報告された。北浜に打ち上げられた貝には、和歌山県で初めて記録された種類もいくつもあった。また、紀伊半島が分布北限として知られている種類も多種類で確認できた。

打ち上げられた貝殻の種類の記録更新中

2004 年 7～8 月の連続の台風時には、打ち上げられた貝殻の中にこれまで発見されていなかった種類が次々と見つかった。そのうちの 4 種を大きな貝殻から順に挙げてみよう。幼児のこぶし大のタツマキサザエ（図）、それより少し小さいマンジュウガイ、数 cm くらいのキナレイシ、そしてヒメホシダカラガイである。いずれも、ごく少数だけの発見である。残念ながら、どの貝殻も、死亡後に時間がかなり経っているせいで、表面の光沢は消え、貝殻の一部は破損していた。

ともかく、延長 300m ほどの北浜という小さなエリアに、これほどの多くの種類の貝類が打ち上がるのは、全国的にも珍しく、まさに「宝の海」だ。死んだ貝殻なので、気楽に出現種を網羅収集できる。うまく割れたものだと内部構造までわかる。何よりも、それぞれの種の一生に思いをはせることができる。それぞれの個体が、親貝からどこで、どのように生まれてどれくらいの間に成長・成熟し、子孫をつくって死んでゆくか。いわゆる衣

食住をも明らかにした個々の生活史を窮め、種の存続が可能かどうかを確かめてゆくことが、生物学では最も大切で基礎的なことなのである。だが、とっかかりやすく究明しづらい海洋生物の生物学的性質のため、このような知見がまだほとんどない種類ばかりのままである。これは、やればみな新しいデータとして価値あるものばかりということになる。



図. 瀬戸臨海実験所北浜に打ち上げられたタツマキサザエの貝殻。新鮮だと模様と光沢が美しくヤコウガイに近縁で重厚なふたがある。